

日本式技能者育成

ミャンマーで始動

技能指導研修者が来日



ミャンマーでミャンマー人による日本式の建築技能者育成がいよいよ始まる。8月末に第1回の技能研修が終了したのを受けてミャンマーから

5人が来日し、16日まで2週間、にわたり埼玉県行田市のもつくり大学で、座学授業シミュレーションによる実践、技能実習による技能の反復練習など技能研修指導者となるための研修を受けた。写真。

国際協力機構(JICA)の「ミャンマー国建築技能訓練校設立運営及び技能認証制度の普及・実証事業」の一環で、業務受託事業者のKNDコーポレーション(東京都北区、神田充社長)が訓練校運営監理、ものつくり大学が訓練校運営企画コンサルタントと教育指導を担当する。2016

年12月から19年7月31日の契約期間で、建築技能者の育成と資格認証業務を行う。技能者養成コースは、「RC型枠・鉄筋」「左官・レンガ」「建築大工」の3コース。受講生の定員は各コースとも40人。4カ月にわたる座学と実技を4回実施し、最大480人の技能者を養成し、ミャンマーのゼネコンに供給する。

事業は5期に分かれており、1期の施工管理マネジメントコースは3月に、8月末には技能研修の1期が終了した。来日したのは、3コース

の指導者を目指す3人とミャンマーの労働省の担当者、技能訓練センター副校長の5人。3人はマネジメントコースと、それぞれの技能者養成コースを終了した人の中から選ばれた。11月2日に開校式が行われる技能研修3期で指導することになる。

三原斉ものつくり大学教授は事業について「技能者のレベルを上げることに加え、日系企業が日本水準の技能者を使って仕事ができる」ことをメリットとして挙げる。

指導者となる3人は「考え方もやり方も違う。日本の手法を学び、手法や工法を改善していきたい」「現場の安全面はあまり重視していなかった」「安全について子どもたちに指導し、定着させたい」「帰国して、子どもたちに学んだことをしっかり伝えたい」などと話していた。